

専門研究B
(重点推進研究)

自閉症・情緒障害特別支援学級における
自閉症のある児童生徒に対する国語科指導の実際

専門研究B (重点推進研究)「特別支援学級における自閉症のある児童生徒への
国語科指導の実際－習得状況の把握と指導内容の編成及び実践を中心に－」

(平成22年度～23年度)

研究成果報告書 別冊(研究協力校実践集)

平成24年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

目 次

はじめに	1
I. 特別支援学級における特別の教育課程編成について	2
II. 国語科学習評価シートについて	4
1. 国語科学習評価シートの考え方	4
2. 国語科学習評価シートの全体像	4
(1) 「話すこと・聞くこと」に関する内容のまとめり	5
(2) 「書くこと」に関する内容のまとめり	6
(3) 「読むこと」に関する内容のまとめり	7
(4) 国語科学習評価シートの実際例	9
III. 国語科学習評価シートの活用方法	10
1. 国語科学習評価シートの実施方法	10
(1) ステップ1の実施（「当該学年の評価規準」のチェック）	10
(2) ステップ2の実施（「当該学年の評価規準を細分化した内容」のチェック）	11
(3) ステップ3の実施（「下学年の評価規準」に照らした評価のチェック）	11
(4) ステップ4の実施（学習の習得状況を整理する）	11
2. 国語科学習評価シートの結果例	11
3. 国語科学習評価シートの結果を指導計画等に生かす	16
IV. 実践事例	20
実践事例1 当該学年教材・当該学年ねらいによる指導	21
「わたしはおねえさん」(物語文)を用いて	
実践事例2 当該学年教材・ねらいを一部変えて指導	30
「わすれられないおくりもの」(物語文)を用いて	
実践事例3 当該学年教材・ねらいを一部変えて指導	38
「ごんぎつね」(物語文)を用いて	
実践事例4 当該学年教材・ねらいを一部変えての指導	47
「世界一美しいぼくの村」(物語文)を用いて	
実践事例5 当該学年教材・下学年のねらいで指導	54
「ごんぎつね」(物語文)の指導	
実践事例6 当該学年教材・ねらいを一部変えての指導	62
「ごんぎつね」(物語文)を用いて	

実践事例 7	当該学年教材・ねらいを一部変えての指導 「自分新聞をつくろう」を用いて	69
実践事例 8	当該学年教材・ねらいを一部変えての指導 「自分新聞をつくろう」を用いて	75
実践事例 9	当該学年教材・ねらいを一部変えての指導 「想像力をふくらませて」を用いて	81
V. 自閉症研究における感想・意見～研究協力校担当教員から～		88
研究組織		93
資料		95
資料①	国語科学習評価シート(1～2年生用)	97
資料②	国語科学習評価シート(3～4年生用)	99
資料③	国語科学習評価シート(5～6年生用)	101
資料④	国語科学習評価シート(中1～2年生用)	103
資料⑤	国語科学習評価シート(中3年生用)	105
資料⑥	国語科学習評価シートのまとめ	108
資料⑦	国語科学習評価シートの活用及び指導計画等への反映フォーマット(枠組み)	…109
資料⑧	国語科学習評価シートの活用及び指導計画等への反映フォーマット(内容)	…110
資料⑨	国語科学習評価シートの活用及び指導計画等への反映フォーマット(配慮)	…111

はじめに

自閉症・情緒障害特別支援学級においては、平成 21 年 2 月 3 日付けの文部科学省通知によって、従前の情緒障害特別支援学級から自閉症・情緒障害特別支援学級と名称を変更したことで、さらなる自閉症教育の充実が求められると考えている。

何故なら、現在、自閉症・情緒障害特別支援学級には、自閉症のある児童生徒が相当数在籍していると推測できるからである。本研究所が平成 18 年度に実施した当時の情緒障害特殊学級の実態調査では、小学校で約 75%、中学校では 60%が自閉症のある児童生徒の在籍であったという結果を示している。さらに、同調査では、中学校卒業後の進路状況についても過去 3 年間の状況を調べているが、それによると、60～70%程度の生徒が特別支援学校に進む状況の中で、全日制の高校への進学も 20%程度に及んでいることが明らかになっている。

また、近年、自閉症・情緒障害特別支援学級は毎年 5,000 人程度の在籍者数が増加し、学級数も 1,000 学級程度増加している状況である。このような現状を踏まえると、当然であるが自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する教員も増加し、十分な経験を積んでいる教員ばかりとはいえない実態がある。

本書は、平成 22 年度～23 年度に実施した専門研究 B（重点推進研究）「特別支援学級における自閉症のある児童生徒への国語科指導の実際－習得状況の把握と指導内容の編成及び実践を中心に－」（本研究課題名は、開始当初の「特別支援学級における自閉症のある児童生徒のカリキュラムアセスメント（仮称）に基づいた教育課程編成の実証的研究」を改変したものである）の別冊である。

別冊にした理由は、上記の現状を踏まえ、同じ自閉症・情緒障害特別支援学級の経験豊かな諸先生方の実践を十分に活用して頂きながら、特別支援学級における特別の教育課程編成に関する基本的な理解、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の特性や実態の把握方法、そして各教科の基本となる国語科指導の一助になることを願っているからである。

研究代表者 教育情報部上席総括研究員 廣瀬 由美子